

岡山大学構内遺跡調査研究年報15

1997年度

1999年1月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

岡山大学構内遺跡調査研究年報15 正誤表

以下のとおり訂正ください。

| 頁 | 誤 | 正 |
|---------|-------|-------|
| 12頁30行目 | 1919年 | 1907年 |
| 12頁30行目 | 明治44年 | 明治40年 |

岡山大学構内遺跡調査研究年報15

1997年度

1999年1月

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター

序

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターは、岡山大学構内における埋蔵文化財の保護を目的として昭和62年（1987年）11月26日に発足しました。平成9年度でちょうど10周年を迎えたわけですが、この間に津島地区の大学院自然科学研究科棟・保健管理センター・図書館、鹿田地区のアイソトープ総合センター等々の建設地で調査を行い、発掘調査は15件におよぶこととなりました。このほか小規模な試掘調査や立ち会い調査も多数にのぼりますが、こうした調査の成果は、本センター発行のセンター報・構内遺跡調査研究年報・発掘調査報告書等において順次本学内外へ広く公表してきたところです。

センターの10年と前身である埋蔵文化財調査室（昭和58年発足）の4年間を経るなかで、津島地区には縄文時代の生活跡や弥生時代以降の水田跡などがほぼ全域に拡がるのが分かり、鹿田地区では特に弥生時代・古墳時代・中世における集落跡が濃密に分布することが明らかになりました。また平成9年度には、本年報で概略を報告しておりますように、鳥取県三朝地区構内でも縄文時代から中世にわたる遺跡のあることが判明しました。本センターの守備範囲がさらに拡大することとなったわけですが、また、これら発掘調査のなかで土器・石器・木器・金属器などの遺物が大量に出土しております。

このようにセンター事業を円滑に進め、調査成果を着実に蓄積することができましたことは、ひとえに関係の調査機関・研究者や本学の事務局・関係部局あるいは岡山県教育委員会・岡山市教育委員会等の諸機関・各位のご指導とご協力の賜であります。10周年の年報刊行の機会にあたり、あらためてお礼を申し上げる次第です。

本学における埋蔵文化財の保護と調査の事業はこれからも永く続く見込みであり、出土する貴重な文化財を後世にのこし、調査成果を積極的に活用してその意義を広く社会に伝えていくことがこれからの大きな課題となります。文部省ではいま大学博物館の設置を推進しておりますが、本学の各学部・関係機関における多様な研究成果とともに、本センターの調査成果もそうした場で積極的に活用されることが期待されるところです。また、構内遺跡の一部を緑地として保存整備し、教職員や学生が日常的に文化財に親しむことができるような工夫も必要かと思われれます。

ともあれ本センターの課題は山積しており、機構や施設を一層充実させるよう努めたいと思っておりますので、今後とも関係各位の一層のご理解とご支援をお願いいたします。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター長

稲 田 孝 司

例 言

- 1 本報告は岡山大学埋蔵文化財調査研究センターが岡山大学構内において1997年4月1日から1998年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査と保存、および活動成果をまとめたものである。
- 2 大学構内の埋蔵文化財の調査に際しては、設定基準を次のように定めた。
 - 1) 津島地区では、国土座標第Ⅴ座標系 ($X = -144,500\text{m}$, $Y = -37,000\text{m}$) を起点とし、真北を基軸とした構内座標を設定した。一辺50mの方形区画である。また、同地区では調査の便宜上、大きく津島北地区と同南地区に二分する (図15)。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第Ⅴ座標系 ($X = -149,800\text{m}$, $Y = -37,400\text{m}$) を起点とし、座標軸をN15° Eに振ったものを基軸とした構内座標を設定した。地区割は一辺5mの方形を用いている (図17)。
 - 3) 本文中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は真北を、他は磁北を用いている。
- 3 岡山大学構内の遺跡の名称は、周知の遺跡の場合はそのまま踏襲する。津島地区構内については、全域を「津島岡大遺跡」と総称する。三朝地区の発掘調査地点は小字名をとり「福呂遺跡」と呼称する。他地区は任意の名称で仮称する。
- 4 調査名称は、「発掘調査」に分類したものについては、各遺跡毎に調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘調査」「立会調査」に分類したものは、任意の名称を用いる。発掘調査のうち、小規模で、試掘調査から連続して調査したものは、「試掘調査」に分類する。
- 5 「発掘調査」についての記述は現段階における概要であり、詳細は正式報告に依って頂きたい。「試掘調査」については、本年報での記述を正式報告にかえる。
- 6 表に記載した所属部は、原則として各学部 of 頭文字を略号として用いている。
- 7 本文・目次・挿図・写真などで使用の調査番号は表1と一致する。
- 8 本文は小林青樹、野崎貴博、山本悦世が分担執筆し、執筆者名を末尾に記した。
- 9 編集は稲田孝司センター長の指導のもとに、野崎貴博が担当した。
- 10 本年報に掲載の津島地区の地形図は国土地理院発行の1/25000「岡山北部」を複写したものである。
- 11 調査・整理において西川宏、扇崎由の両氏にご援助・教示を頂いた。記して感謝申し上げます。

岡山大学構内遺跡調査研究年報15 1997年度

目 次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 第1章 1997年度岡山大学構内遺跡調査報告 | |
| 第1節 調査の概要 | 1 |
| 第2節 発掘調査 | 1 |
| 1 福呂遺跡第1・2次調査〈固体地球研究センター実験研究棟新営予定地〉 | 1 |
| 2 鹿田遺跡第7次調査〈医学部基礎医学棟新営予定地〉 | 6 |
| 第3節 試掘調査 | 8 |
| 1 固体地球研究センター実験研究棟新営工事に伴う試掘調査 | 8 |
| 2 医学部校舎新営工事に伴う試掘調査 | 10 |
| 第4節 立会調査 | 11 |
| (1) 津島地区 | 11 |
| (2) 鹿田地区 | 12 |
| (3) 三朝地区 | 12 |
| (4) 東山地区 | 12 |
| 第5節 岡山大学構内における陸軍関連施設の調査 | 12 |
| 第2章 1997年度普及・研究・資料整理活動 | 21 |
| 1 資料整理 | 21 |
| 2 分析依頼 | 21 |
| 3 刊行物 | 21 |
| 4 調査員の活動 | 21 |
| 5 日誌抄 | 23 |
| 6 1997年度までの遺物保管状況 | 24 |
| 7 遺物の保存処理 | 24 |
| 8 10周年記念事業 | 27 |
| 9 資料の貸し出し | 27 |
| 第3章 岡山大学構内埋蔵文化財保護対策要項 | 28 |
| 第1節 岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの内部規程 | 28 |
| 1 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター規程 | 28 |

| | | |
|-----|----------------------------|----|
| 2 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター管理委員会規程 | 29 |
| 3 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター運営委員会規程 | 30 |
| 4 | 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター自己評価委員会規程 | 31 |
| 第2節 | 1997年度埋蔵文化財調査研究センター組織 | 32 |
| 1 | センター組織一覧 | 32 |
| 2 | 管理委員会 | 32 |
| 3 | 運営委員会 | 33 |
| 第4章 | 1997年度活動のまとめ | 34 |
| 附表 | | 35 |
| 別編 | | 50 |

挿 図 目 次

| | | |
|-----|----------------------|----|
| 図1 | 福呂遺跡の位置 | 1 |
| 図2 | 福呂遺跡第1・2次調査地点の位置 | 2 |
| 図3 | 土層断面模式図と断面の位置 | 3 |
| 図4 | A地点縄文時代早期遺構平面図 | 4 |
| 図5 | C地点中世遺構（黒色層2）平面図 | 5 |
| 図6 | 調査地点 | 6 |
| 図7 | 鹿田遺跡第7次調査遺構全体図・土層断面図 | 7 |
| 図8 | 福呂遺跡試掘調査 調査地点位置図 | 8 |
| 図9 | 福呂遺跡試掘調査土層断面図 | 9 |
| 図10 | 試掘調査地点 | 10 |
| 図11 | 土層断面図 | 11 |
| 図12 | 調査㊦土層断面図 岡山市教育委員会 | 12 |
| 図13 | 庭園測量図 | 13 |
| 図14 | 津島地区構内にのこる旧陸軍関連施設の位置 | 15 |
| 図15 | 津島地区全体図 | 17 |
| 図16 | 今年度の調査【1】津島地区 | 18 |
| 図17 | 今年度の調査【2】鹿田地区 | 19 |
| 図18 | 今年度の調査【3】三朝地区 | 20 |
| 図19 | 今年度の調査【4】東山地区 | 20 |

| | | |
|-----|----------------------|----|
| 図20 | 遺跡見学会のコース | 27 |
| 図21 | 1997年度までの調査地点【1】津島地区 | 48 |
| 図22 | 1997年度までの調査地点【2】鹿田地区 | 49 |

表 目 次

| | | |
|----------|------------------------------|----|
| 表 1 | 1997年度調査一覧 | 16 |
| 表 2 | 埋蔵文化財調査研究センター収蔵遺物概要 | 25 |
| 附表 1 | 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度） | 35 |
| 附表 2 | 1996年度以前の構内主要調査（1983～1996年度） | 36 |
| 附表 2—（1） | 発掘調査 | 36 |
| 附表 2—（2） | 試掘調査 | 38 |
| 附表 2—（3） | 立会調査 | 40 |
| 附表 3 | 埋蔵文化財調査室刊行物 | 46 |
| 附表 4 | 埋蔵文化財調査研究センター刊行物 | 46 |

資 料 目 次

| | | |
|------|------------|----|
| 資料 1 | 『和名抄』国郡之部 | 52 |
| 資料 2 | 『続日本紀』和銅6年 | 53 |
| 資料 3 | 平城宮木簡 | 55 |